

萌木　１１月

～自尊・立志・感動～

調布市立第七中学校
校　長　山田　勝
令和８年１１月１３日発行

「受け継ぐ」から「繋がる」へ

校長　山田　勝

２８日の合唱コンクールに続き、３０日には開校５０周年記念式典があり、全校生徒が一堂に会する機会が多くなった１０月の月末でした。

合唱コンクールでは、上級学年に進むほど歌声のまとまりが磨かれた合唱となり、会場全体を深い感動で包み込みました。この機会を通し、来年はこのような姿になりたいと思い描くことが具体的にできることで、自分や自分たちの成長への道筋をイメージすることができることと思います。それぞれの１年後の成長が、また楽しみになる機会でした。

開校５０周年記念式典では、合唱コンクールの余韻もある中、全校合唱での迫力ある歌声など七中の現在地を示してくれました。七中の学びに向かう伝統風土を受け取り、受け継ぐことにとどまらず、過去の卒業生や未来の七中生にも繋がることの意味を考え受け止められる機会となりました。

式辞の一部を紹介します。

節目の５０周年に在籍している生徒のみなさんにとっては、この七中の環境で育まれてきた校風や伝統を改めて自分事として捉え、自分の成長に結び付けることができる機会となりました。

５０年前から変わらぬ野川の流れと、50 年前からここにあり続ける白くそびえる校舎がいつも七中生の成長を見守ってくれています。

その環境の中で、自らを高めよう、学ぼうという気概を持って学校生活に取り組むという校風、七中の風土が出来上がりました。

５０年の中では、受け継がれている学びに向かう風土の灯が消えそうになったことも七中は経験してきました。

校舎北側にあるけやき庭。これも造成したきっかけは、学びに向かわず力の誇示だけに向かおうとしていた当時の七中生たちの健全な心の育成を思い、地域保護者の方々が作ってくださったものだそうです。今は当時と同じ活用の仕方は難しいですが、学びにつながる場として生まれ変わることを楽しみにしています。

また、６年前のコロナ禍でも学びの危機に瀕しました。オンラインなど感染対策を取りながら学びを継続しましたが、そのことが改めて、ここに集まり共に学ぶことが学びの大きな意味であることを私たちに教えてくれました。そして、感染対策下で取り入れた朝トークなどの対話活動を通して学びに向かう力を高めることが、七中の伝統に加わりました。

七中には、はしうち教室という分教室があります。学校という大きな枠組みの中で自分らしさを出し切れず悩んでいる人が、学ぶことができる場を求めて集まったクラスです。どのような環境の中でも学びに向かう姿勢を支えていけるクラスがあることを、伝統校風に取り込み磨き上げていくことがこれからの七中に求められています。

校歌に込められている思いも、時代によって解釈は変わりもしましたが、「仲間とともに学び、夢を語り合い、前に進んでいこう」という理想は歌い継がれています。在校生の皆さんは、七中の伝統を受け取りそして残して引き継いでいくことの意義を感じ取って大切にしてください。

「校歌」に寄せる思い③

百日紅の花並木
燃えよ若人たくましく
緑ひろがる学舎に
理想を高く胸に秘め
風雪に耐えすすむとき
あゝ　七中に誉あれ

七中から社会に旅立つ力強い七中生をうたった一番、ここで学び成長するかけがえのない場の七中を歌っている二番に続き、「自然の恵み豊かな七中でたくましく育ち、理想をめざし社会に進んでいこう」という気概を持つことを誇りに思い成長していこうという願いが込められた校歌のまとめになる三番になっていると思いました。校歌に込められている「仲間とともに学び、夢を語り合い、前に進んでいこう」という理想は歌い継がれています。